



株主通信

第150期 (平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日)



zoom-zoom

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。
ここに、当社グループの第150期（2015年4月から2016年3月まで）
の業績ならびに今後の業績見通しについてご報告申し上げます。

2016年6月

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）

小飼 雅道

当期の概況

当期は新興国経済の減速や不安定な為替相場など不透明な要素が多い中、「SKYACTIV技術」を梃子にした構造改革を推進し、マツダらしい魅力ある商品とサービスの提供を通じたブランド価値の向上に取り組み、着実な成長を図ることができました。

商品面では、「SKYACTIV技術」と「魂動（こどう）」デザインを採用し、「人馬一体」の楽しさを追究した新型「マツダ ロードスター」を日本より順次グローバルに導入いたしました。新型「ロードスター」は、「2015-16日本カー・オブ・ザ・イヤー」、「2016ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」をはじめ、国内外で30を超える賞を受賞するなど、我々が目指すクルマづくりを多くの方に認めていただけたことを嬉しく思います。海外市場では、2015年11月に新開発の2.5L直噴ガソリンターボエンジン「SKYACTIV-G 2.5T」を搭載した新型3列ミッドサイズクロスオーバーSUV「マツダ CX-9」を公開し、このたび北米より販売を開始しました。ミッドサイズSUVセグメントへの新型「CX-9」の投入により、新世代商品のラインアップ強化を図り、持続的成長とさらなる飛躍を目指してまいります。

生産面では、「構造改革プラン」の主要施策の一つとして掲げた「グローバル生産体制の再構築」を着実に進めてまいりました。タイでは、2015年10月より、「SKYACTIVエンジン」

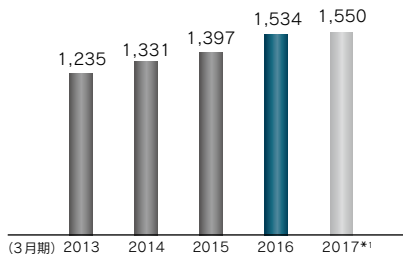
の量産を開始するとともに、グローバルに成長を続けるコンパクトSUV市場において、商品をタイムリーかつ安定的に供給する体制を確立するため、「マツダ CX-3」の生産を開始いたしました。

当期の業績は、「CX-3」、新型「ロードスター」などの新型車のグローバル導入が進んだことに加え、「アテンザ」、「CX-5」など商品改良モデルの好調な販売により、グローバル販売台数は前期比9.8%増の153万4千台となりました。売上高は3兆4,066億円（前期比3,727億円増、12.3%増）、営業利益は、出荷台数の増加や「モノ造り革新」による継続的なコスト改善等により、2,268億円（前期比239億円増、11.8%増）となり、当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は1,344億円（前期比244億円減、15.4%減）となりました。「SKYACTIV技術」を梃子にした構造改革を強力に推進した結果、中期経営計画「構造改革プラン」最終年度となる当期において過去最高の販売台数と営業利益となりました。

配当金については、当期の業績および経営環境並びに財務状況等を勘案して決定することを方針とし、安定的な配当の実現と着実な向上に努めることとしております。当期は、1株当たり30円（中間配当15円、期末配当15円）の配当とさせていただきます。

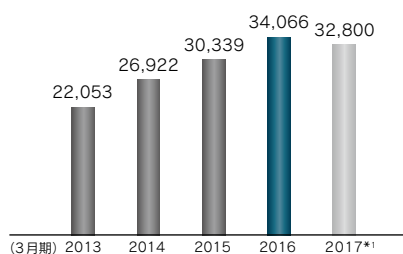
グローバル販売台数

(千台)



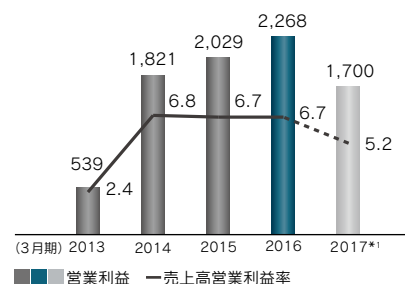
売上高

(億円)



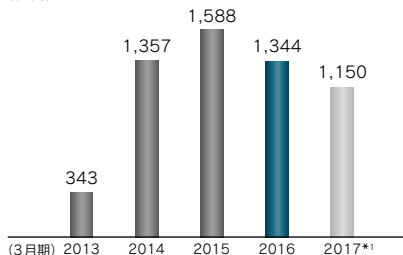
営業利益／売上高営業利益率

(億円／％)



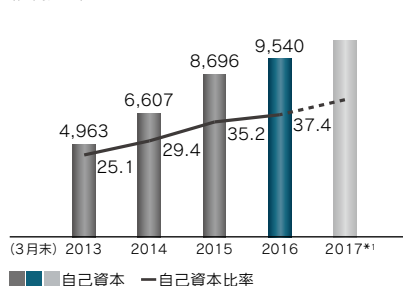
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)

(億円)



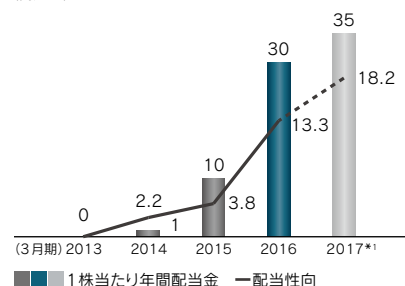
自己資本／自己資本比率

(億円／％)



1株当たり年間配当金*2／配当性向

(円／％)



*1 2017年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

*2 当社は2014年8月1日付で、5株を1株の割合で株式併合しています。

次期見通し

今後の見通しにつきましては、引き続き新興国経済の減速や為替の変動などにより、不透明な状況が続くことが予想されます。このような状況ではありますが、中期経営計画「構造改革ステージ2」の初年度となる次期におきましても、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を両立する魅力ある商品をお届けするとともに、全領域でビジネスの質的成長を目指し、ブランド価値のさらなる向上に向けて取り組んでまいります。

次期のグローバル販売台数は前期比1.0%増の155万台、米ドルやユーロなどの主要通貨が前期に比べて円高で推移していることなどにより、売上高は3兆2,800億円(前期比1,266億円減)、営業利益は1,700億円(前期比568億円減)、当期純利益は1,150億円(前期比194億円減)の見通しです。

配当予想につきましては、当期より5円増配の、1株当たり35円(中間配当15円、期末配当20円)としております。

「構造改革ステージ2」

「構造改革プラン」は安定的な収益構造の実現に向けて一定の成果を上げましたが、主要施策の各領域で依然としてさらなる改善の余地があると考えております。そこで、将来の持続的成長に向け、2017年3月期からスタートする中期経営計画「構造改革ステージ2」では、「モノ造りの質」、「販売の質」、「財務体質」など、ビジネスの質的成長により、ブランド価値の向上を図ってまいります。

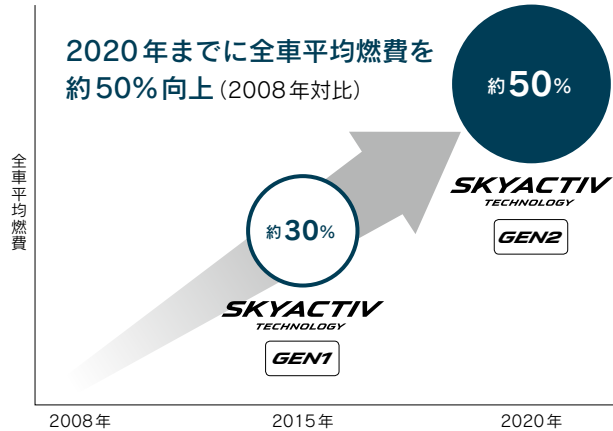
構造改革ステージ2

構造改革は、質的成長とブランド価値向上のステージへ	
商品・開発	- 新世代商品群の継続的進化 - 次世代商品（Generation2）開発・投入開始
ブランド・販売	- 販売戦略浸透に向けた現場改革を推進 - お客さま保有体験の向上
グローバル生産	- モノ作り革新をグローバル展開しコスト改善加速 - 工場稼働率最大化により販売拡大をサポート
財務基盤強化	- 強固な財務基盤構築 - 配当性向改善

2019年3月期 経営指標（為替前提 USドル 120円／ユーロ 130円）

グローバル販売台数	営業利益率	自己資本比率	配当性向
165万台	7%以上	45%以上	20%以上

商品・開発領域では「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を提供する新型車を6車種（派生車1車種含む）投入いたします。また、最新のデザイン・技術を商品改良モデルに搭載し、新世代商品群の継続進化を図るほか、グローバルで需要が高まりつつあるクロスオーバー系車種のラインアップ拡充により、台数成長と収益性向上の両立を図ります。次世代商品に向けた技術開発では、今後さらに厳しくなる各国の環境等の規制対応も含め、環境・安全対応に重点を置いて進めてまいります。



ブランド・販売領域では「SKYACTIV技術」搭載車のフルラインアップにより、販売強化を図ります。また、正価販売方針のグローバルでの展開・浸透を図り、実売価格や車両残価を改善することでリテンション（再購入率）を向上させていきます。さらに、カスタマーケアやお客さまのブランド体験向上

に重点を置いた現場改革を推進し、お客さまと特別な絆でつながるブランドを目指して取り組んでまいります。



新世代店舗

生産領域では国内生産拠点で大きな成果が出ている「モノ造り革新」をグローバルの全拠点に展開し、コスト改善を加速させていきます。また、「SKYACTIV技術」搭載車の販売増に対応するため、主要生産拠点の生産効率を最大化するとともに、拠点間の相互補完を可能にするグローバルスイング生産体制を構築します。また今後の販売台数構成において、増加を予測しているクロスオーバー系車種の生産比率を、50%まで拡大できるよう対策をほどこし、165万台に向けた台数成長を実現します。

生産効率最大化に向けた各生産拠点の取り組み

日本	
防府	・ 2017年3月期後半に「CX-3」を生産開始
宇品	・ 「CX-5」、「CX-9」の生産能力拡大 ・ 2018年3月期以降は稼働向上
海外	
MMVO（メキシコ）	・ 「Mazda3」を防府との相互補完が可能となるスイング生産、フル稼働へ
その他	・ タイ（「CX-3」）、マレーシア（「CX-5」）の生産能力も増強

財務領域では着実な台数成長とビジネスの質的成長によるブランド価値の向上により、安定的な利益とキャッシュ・フローを創出し、自己資本の充実など、財務基盤の強化を図ってまいります。株主還元については、安定的な配当の実現とともに、財務基盤の強化にあわせ、着実な配当性向の改善を図ってまいります。

地球・社会と共存し社会的責任を果たしつつ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図っていく上での最重要経営課題の一つとして、コーポレートガバナンス体制のさらなる充実にも取り組んでまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長兼 CEO（最高経営責任者）

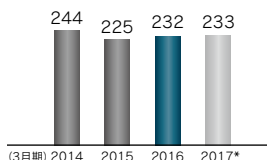
小飼雅道

市場別ハイライト

販売台数(千台)

日本市場

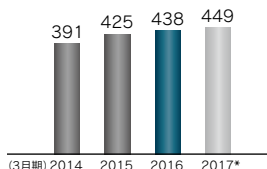
232千台
(前期比3%増)



- 当期の販売台数は前期比3%増の23万2千台
- 需要が前年を下回る中で販売を伸ばし、シェアは前期比+0.5ptsの4.7%。登録車シェア同+0.6ptsの6.1%
- 新型「ロードスター」の導入や、「CX-3」による通年での販売貢献
- 次期の販売台数は当期と同水準の23万3千台の見通し

北米市場

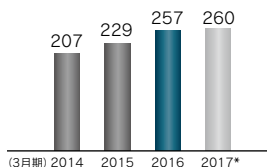
438千台
(前期比3%増)



- 当期の販売台数は前期比3%増の43万8千台
- 米国ではフリート販売を抑制しつつ、前期と同水準の30万6千台
- メキシコでは「Mazda2」、「Mazda3」が好調で、同30%増の5万9千台
- 次期の販売台数は当期比3%増の44万9千台の見通し

欧州市場

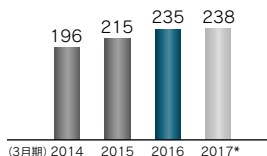
257千台
(前期比12%増)



- 当期の販売台数は前期比12%増の25万7千台
- 「Mazda2」が通年で販売に貢献したほか、「CX-3」が牽引
- ロシアを除く欧州は需要の伸びを大幅に上回る販売
- 次期の販売台数は当期比1%増の26万台の見通し

中国市場

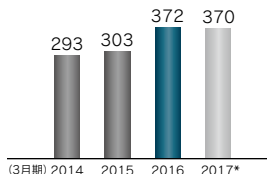
235千台
(前期比10%増)



- 当期の販売台数は前期比10%増の23万5千台
- 減税効果もあり「Mazda3」は引き続き販売好調
- 「CX-5」の商品改良モデル、「Mazda6」も販売増に貢献
- 次期の販売台数は当期比1%増の23万8千台の見通し

その他市場

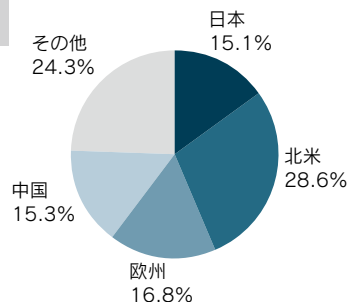
372千台
(前期比23%増)



- 当期の販売台数は前期比23%増の37万2千台
- オーストラリアでは同15%増の11万6千台、シェア10%を達成
- ASEANではタイが需要減の中、同23%増
ベトナムは同90%増
- 次期の販売台数は当期比1%減の37万台の見通し

グローバル販売台数

1,534千台
(前期比9.8%増)



* 2017年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

	2016/3末	2015/3末
資産の部		
流動資産	13,937	13,144
固定資産	11,547	11,589
有形固定資産	9,375	9,430
無形固定資産	307	294
投資その他の資産	1,864	1,865
資産合計	25,484	24,733

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

	2016/3末	2015/3末
負債の部		
流動負債	10,065	9,041
固定負債	5,652	6,779
負債合計	15,717	15,820
純資産の部		
株主資本	8,674	7,475
その他の包括利益累計額	866	1,221
非支配株主持分	227	217
純資産合計	9,767	8,913
負債純資産合計	25,484	24,733

連結損益計算書(要旨)

(単位：億円)

	2015/4 – 2016/3	2014/4 – 2015/3
売上高	34,066	30,339
売上総利益	8,391	7,862
営業利益	2,268	2,029
経常利益	2,236	2,126
税金等調整前当期純利益	1,670	2,093
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	1,344	1,588

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

	2015/4 – 2016/3	2014/4 – 2015/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,628	2,045
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,081	△955
財務活動によるキャッシュ・フロー	△941	△628
現金及び現金同等物に係る換算差額	△211	33
現金及び現金同等物の増減額 (△減少額)	396	494
現金及び現金同等物の期首残高	5,291	4,798
現金及び現金同等物の期末残高	5,687	5,291

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

新世代商品群の頂点となる北米戦略モデル新型「CX-9」を初公開、 クロスオーバー系車種のラインアップを拡充



新型「CX-9」(北米仕様車)

Photo by Victor Decolongon/Getty Images for Mazda Motor Co.

新型「マツダ CX-9」は、「SKYACTIV技術」とデザインテーマ「魂動(こどう) —Soul of Motion」を全面的に採用した新世代商品群のハイエンドモデルです。パワートレインには新開発の2.5L直噴ガソリンターボエンジン「SKYACTIV-G 2.5T」をマツダ車として初めて搭載します。年間約5万台のグローバル販売計画台数の約8割を北米市場が占める北米戦略モデルとして、このたび販売を開始しました。マツダはミッドサイズSUVセグメントへの新型「CX-9」の投入により、北米における継続的な成長とさらなる飛躍を目指します。

米国環境保護庁の燃費トレンドレポートにおいて、 「企業平均燃費値」で3年連続の総合1位を獲得



「CX-5」(米国仕様)

「燃費トレンドレポート」*1は、当該モデルイヤーとして米国で発売された車種の燃費動向をまとめたもので、各社別に企業平均燃費実績値*2を集計した結果などが公表されています。マツダの2014年モデル総合の平均燃費は29.4mpg(マイル毎ガロン)で、前年比1.3mpgの改善となりました。

マツダは、すべてのお客さまに「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」をお届けすることを目指し、エンジン、トランスミッション、ボディ、シャシーの革新的新世代技術「SKYACTIV技術」を開発し、幅広く商品に展開しています。この継続的な取り組みが、企業平均燃費値の3年連続総合1位という結果につながったものと考えています。

*1 燃費トレンドレポート：米国環境保護庁(EPA)が公表している1975年以降の新車(乗用車と小型トラック)の燃費値の推移をまとめた年次報告書。<http://www3.epa.gov/otaq/fetrends-complete.htm>

*2 企業平均燃費実績値：各社が一年間に販売した車の平均燃費。EPAの「燃費トレンドレポート」では、EPAが定めた手法による各車種の燃費値(市街地と高速道路走行時)をモデルイヤー(年式)毎に販売台数に応じて加重平均している。

マツダブランドをより身近に感じていただくための 直営ショールーム、「マツダブランドスペース大阪」がオープン



マツダブランドスペース大阪

2016年1月29日にオープンしたマツダ直営のショールーム「マツダブランドスペース大阪」（大阪府大阪市）は、マツダがクルマづくりにかける想いやこだわりをお客さまにお伝えするブランド発信地です。マツダのクルマづくりやブランドを表現したアイテムと代表的なマツダ車を常時展示しています。加えて、マツダ社員との交流イベントを定期的に開催するなど、お客さまとマツダの絆を育む場としても活用していきます。

「マツダブランドスペース大阪」概要

所在地：大阪市北区大淀中1丁目1-88 梅田スカイビル タワーイースト1F

営業時間：午前10時15分～午後6時45分

定休日：毎週火曜日（ただし、この他に不定期に休日がありますのでお問い合わせください）

入場料：無料

お問い合わせ先：06-6440-5013（「マツダブランドスペース大阪」受付）

※なお、イベント開催情報などについては「マツダブランドスペース大阪」の公式ホームページをご覧ください。
（URL：<http://www.mazda.co.jp/bsosaka/>）

新型「ロードスター」、人馬一体の運転する楽しさとデザインが評価され 国内外で30を超える賞を受賞



2016 World Car Awards授賞式

4代目となる新型「マツダ ロードスター」は、2015年にグローバルに導入して以来、大幅な軽量化や人が主役のデザイン、人馬一体の運転する楽しさなどについてお客さまより好評をいただいております。これまでに、ワールド・カー・アワードが主催する「2016ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」、特別賞の一つ「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」をダブルで受賞したほか、日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催する「2015-2016 日本カー・オブ・ザ・イヤー」で「2015-2016日本カー・オブ・ザ・イヤー」、特定非営利活動法人（NPO）の「日本自動車殿堂」による「2015～2016日本自動車殿堂カーオブザイヤー」など、30を超える賞を受賞しています。



WINNER
2016 WORLD CAR AWARDS
WORLD CAR OF THE YEAR

開催日：2016年3月24日 会場：World Car Awards 授賞式会場 マダモ・ロンドナ



WINNER
2016 WORLD CAR AWARDS
WORLD CAR DESIGN OF THE YEAR

開催日：2016年3月24日 会場：World Car Awards 授賞式会場 マダモ・ロンドナ



2015-2016
日本カー・オブ・ザ・イヤー
受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会

主要商品ラインアップ

「SKYACTIV 技術」と「魂動」デザイン採用の新世代商品ラインアップは、2012年導入の「マツダ CX-5」をはじめとして2015年には新型「マツダ ロードスター」を導入し、スタイルもコンパクトからSUV、スポーツまで着実に広がっています。常にあるべき理想の姿を追い求め、モデルチェンジのタイミングにとらわれず、各モデルの熟成・進化を図ることで、ショールームでは常に最新のデザイン・技術を搭載したモデルをご覧いただけます。

Mazda DEMIO

海外市場での車種名：Mazda2



マツダのDNAを凝縮した“クラス概念を打ち破る新世代コンパクト”で、際立った存在感を放つデザインや理想的なドライビングポジション、上質な内装などが好評の「マツダ デミオ」。商品改良した「デミオ」は、静粛性、質感と快適性および「人馬一体感」の向上を図り、単なる道具であることを超えて、ドライバーの毎日を鮮やかに変えていくコンパクトカーとして進化しました。

スタイル	コンパクト
エンジン	ガソリン：1.3L / 1.5L ディーゼル：1.5L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン：19.2 ~ 24.6 (km/L) ディーゼル：22.8 ~ 30.0 (km/L)
価格帯*2	135 ~ 221 (万円)

Mazda CX-3



上質かつスタイリッシュなデザイン、あらゆる場面での使いやすさを追求したサイズとパッケージング、素直に運転が楽しいと感じられる走行性能を高次元で融合した「マツダ CX-3」。商品改良した「CX-3」では、ディーゼルエンジンのノック音を抑制する「ナチュラル・サウンド・スムーザー」を全車に標準装備することで静粛性の向上を図り、同時に緻密なチューニングとエンジン制御により「人馬一体感」を進化させました。

スタイル	SUV / クロスオーバー
エンジン	ディーゼル：1.5L
燃費*1 (JC08モード)	ディーゼル：21.0 ~ 25.0 (km/L)
価格帯*2	237 ~ 302 (万円)

Mazda **AXELA**

海外市場での車種名 : Mazda3



スタイル	4ドアセダン／5ドアスポーツ
エンジン	ガソリン: 1.5L / 2.0L ディーゼル: 2.2L ハイブリッド
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 17.8 ~ 21.4 (km/L) ディーゼル: 19.6 ~ 21.4 (km/L) ハイブリッド: 28.0 ~ 30.8 (km/L)
価格帯*2	176 ~ 309 (万円)

Mazda **ATENZA**

海外市場での車種名 : Mazda6



スタイル	4ドアセダン／ステーションワゴン
エンジン	ガソリン: 2.0L / 2.5L ディーゼル: 2.2L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 16.0 ~ 17.4 (km/L) ディーゼル: 18.2 ~ 22.4 (km/L)
価格帯*2	276 ~ 396 (万円)

Mazda **CX-5**



スタイル	SUV / クロスオーバー
エンジン	ガソリン: 2.0L / 2.5L ディーゼル: 2.2L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 14.6 ~ 16.4 (km/L) ディーゼル: 18.0 ~ 18.4 (km/L)
価格帯*2	244 ~ 348 (万円)

Mazda **ROADSTER**

海外市場での車種名 : Mazda MX-5



スタイル	スポーツ
エンジン	ガソリン: 1.5L
燃費*1 (JC08モード)	ガソリン: 17.2 ~ 18.8 (km/L)
価格帯*2	249 ~ 319 (万円)

*1 国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコン使用時など）に応じて燃料消費率は異なります。

*2 記載の価格はメーカー希望小売価格（消費税8%込。1万円未満は切り捨て）です。別途リサイクル料金が必要となります。



その他車種情報については
マツダ公式サイトを
ぜひご覧ください。

<http://www.mazda.co.jp/>



Facebookでは「マツダの今がわかる」
最新の情報などをお届けしています。

<https://www.facebook.com/Mazda.Japan>

MAZDA *ROADSTER*

マツダはすべてのお客さまに「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」をお届けすることで、お客さまに選ばれ続けるオンリーワンのブランドになることを目指しています。

今回の特集では、環境・安全性能に対する時代の要請が厳しくなっていく中で、マツダらしい「運転する楽しさ」を追求するクルマづくりについて、グローバルに高い評価をいただいている4代目新型「マツダ ロードスター」(以下ロードスター)を例にとって説明します。

01 感

—— 人がクルマを楽しむ感覚「感(かん)」の追求

「ロードスター」があることで、人生がより楽しく、より濃密になる。そんな、クルマであることを超えた存在であり続けることを願って、新型「ロードスター」では、人馬一体の走りや所有する歓びといった Lots of Fun の領域を徹底して高めるため「感(かん)」をキーワードとしました。初代から取り入れてきた「感性工学」の考え方をさらに掘り下げ、初代、2代目、3代目の延長線上ではなく、最新の「SKYACTIV 技術」とデザインテーマ「魂動」によるクルマとしての進化と、「軽快感」、「手の内・意のまま感」、「開放感」といった「人がクルマを楽しむ感覚」の進化に、部門を超え目標を共有する共創活動を通して徹底的に取り組みました。



感 (Kan)

SKYACTIV
TECHNOLOGY

魂動

KODO : SOUL of MOTION

02 だれもが一瞬で心ときめくデザイン

—— 乗る人が際立つ美しいプロポーション

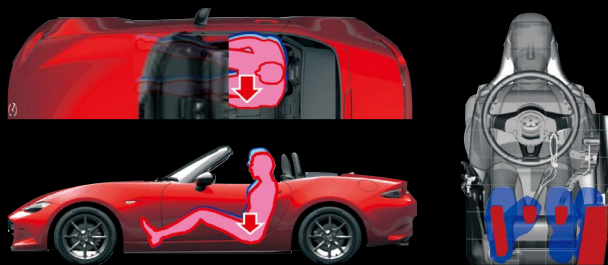
「ロードスター」はトップを開け、ウインドーを下げた姿が基本であり、主役はあくまでも人です。乗る人が際立つ美しいプロポーションを実現するためにさまざまな要素をデザイナーとパッケージングエンジニアが一体となって検証、人を中心としてライトウェイトスポーツカーの鉄則に合うレイアウトを極限まで突き詰めることで美しいプロポーションを実現しました。こうして造り上げた「人が際立つプロポーション」とマツダのデザインテーマ「魂動」の融合により、だれもが一瞬で心ときめくデザインを実現しました。



03 人中心の Cockpit

—— クルマをより楽しく安全に

新型「ロードスター」では、人中心のクルマづくりをするにあたり、マツダの新世代商品と同様の思想で、クルマを自分の意のままに操る楽しさや、クルマを自分の意志で動かしている感覚を体現するためのドライビングポジションに徹底的にこだわっています。ドライバーがまっすぐな姿勢で操作できる位置にペダル類を配置するなど、主要な操作系、視認系の機器を人を中心にレイアウトしています。こうした工夫により、クルマをより楽しく安全に運転することができま



守るために変えていく —— 「運転する楽しさ」を次世代に継承するために

新型「ロードスター」の開発にあたり、私たちは初代の志に立ち返し、これこそライトウェイトスポーツカーの原点と感じていただける「運転する楽しさ」を現代に体現することに挑戦しています。環境や安全などの厳しい規制に対応しながらそれを可能にしたのは、すべての部門が同じ目標を共有し挑戦する共創活動です。結果、先代に比べ100kgを超える軽量化や、わくわくするようなデザインを実現することができました。

広島には厳島神社に代表される伝統と文化があり、戦前より培われた技術基盤もあります。また、オープンカーを運転する場所は空気がきれいであればならず、紛争があつたら乗ることができない平和の象徴です。マツダが広島で「ロードスター」をつくれることの意味を考えながら、次の25年、50年も愛され続ける「ロードスター」であるために「守るために変えていく」挑戦を続けます。

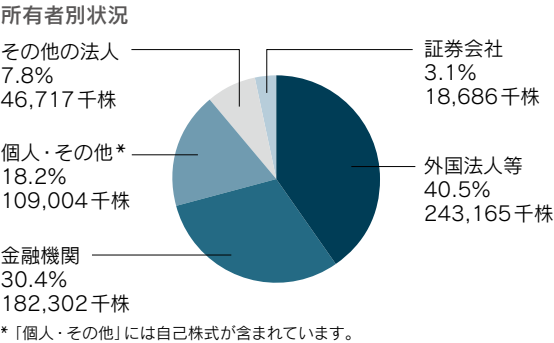


新型「ロードスター」開発主査
山本 修弘（やまもと のぶひろ）



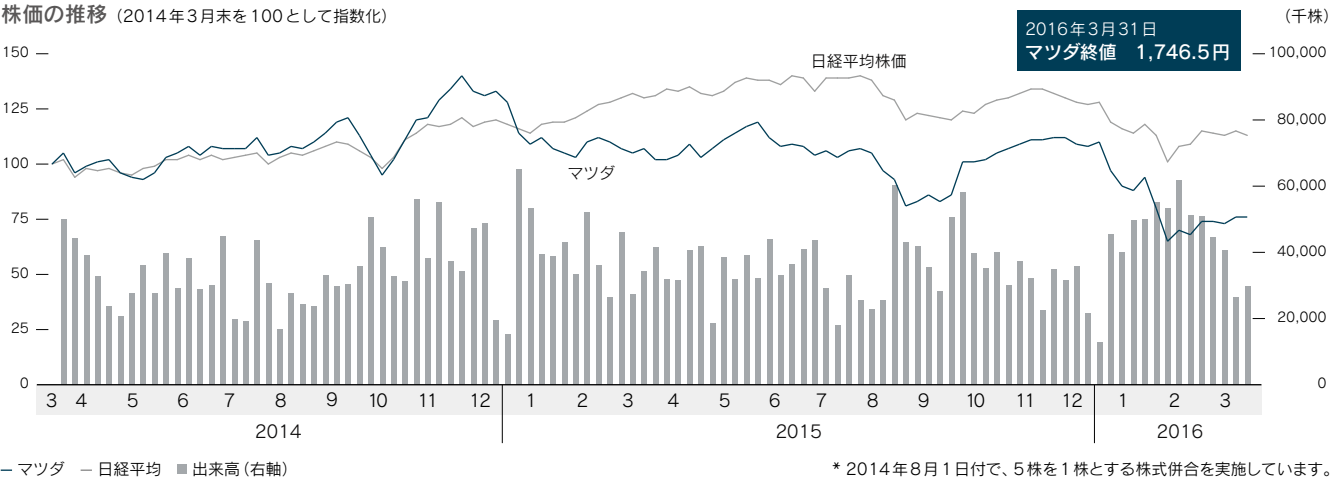
株式の状況 (平成28年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,200,000,000株
発行済株式総数 599,875,479株
株主数 158,602名
(前期末比8,216名増加)



株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	40,688	6.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	30,172	5.0
株式会社三井住友銀行	12,857	2.2
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	11,579	1.9
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	8,071	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口 7)	8,004	1.3
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	7,470	1.2
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	6,765	1.1
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	6,672	1.1
三井住友海上火災保険株式会社	6,496	1.1

(注) 持株比率は、自己株式2,051,153株を控除して計算しています。



会社概要／株主メモ

会社概要（平成28年3月31日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	連結:46,398名 単独:20,849名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番7号 電話(03) 3508-5031
ホームページURL	http://www.mazda.com/ja/

取締役および監査役（平成28年6月28日現在）

代表取締役会長	金井 誠太
代表取締役	小飼 雅道
代表取締役	丸本 明
取締役	原田 裕司
取締役	中峯 勇二
取締役	稲本 信秀
取締役	菖蒲田 清孝
取締役	藤原 清志
取締役	坂井 一郎
取締役	城納 一昭
監査役(常勤)	栃尾 信義
監査役(常勤)	河村 裕章
監査役	赤岡 功
監査役	平澤 正英
監査役	堀田 隆夫

株主メモ（平成28年3月31日現在）

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/	
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
・電話お問合せ先	☎ 0120-782-031	
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
単元株式数	100株	
証券コード	7261	

オフィシャルウェブサイトもご活用ください

株主・投資家情報

社長メッセージや決算資料、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。



<http://www.mazda.com/ja/investors/>

CSR

環境保全、社会貢献、安全への取り組み、サステナビリティレポートへのリンクなど、さまざまな情報を掲載しています。



<http://www.mazda.com/ja/csr/>

マツダ株式会社



本誌は植物油インキを使用しています。

表紙掲載車種 新型「マツダ CX-9」(北米仕様)